

令和元年度神奈川県教科用図書足柄上採択地区採択検討会
会議録

日時： 令和元年7月17日（水） 9：00～16：30

場所： 松田町民文化センター 展示ホール

事務局

皆様、おはようございます。本日は、ご多用のところお集まりいただきありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

配布資料

- 1 次第
- 2 議事次第（各教科発表時間割）
- 3 検討会委員名簿
- 4 検討会座席表
- 5 検討会規約
- 6 会議の傍聴人規約
- 7 各市町採択方針
- 8 調査員作成資料の令和2年度～令和5年度使用小学校教科用図書教科別調査票（以下、「調査票」と称す。）は、教育委員以外の方は、会議終了後に回収させていただきます。

事務局から3点の事務連絡をさせていただきます。

- 1 会議録作成のため、録音させていただくことをご了承ください。
- 2 本日の旅費については、神奈川県教科用図書足柄上採択地区協議会（以下「協議会」と称す。）から8月中旬を目途に各市町教育委員会を通してお渡しいたします。
- 3 この検討会の会長と副会長は、「神奈川県教科用図書足柄上採択地区採択検討会規約」第4条において協議会の会長と副会長を充てることとなっております。5月23日に開催された第1回の協議会において、本会の会長は松田町教育長職務代理者様に、副会長は南足柄市の教育長職務代理者様に決定しておりますことを申し添えます。

それでは、ただ今から「令和元年度神奈川県教科用図書足柄上採択地区採択検討会」を開会いたします。

本日は、検討会委員45人のうち41人のご出席、4人は欠席となっております。半数以上の出席がありますので、検討会規約第7条第2項の規定により、検討会

が成立しましたことを報告いたします。

なお、本日の検討会において、傍聴の申出が2人ありました。入室を許可してよいでしょうか。

各委員（全員）

はい。

事務局

入室許可されました。

それでは、会長からご挨拶をいただきたいと思います。

会長

おはようございます。梅雨の時期と言いましても低温で雨が続きますと「日差しが恋しい」とその様な思いにさせられます。本日は、ご多用の中、朝早くからご出席いただきましてありがとうございます。今日一日長丁場でございます。会議がスムーズに進みますようご協力をお願いします。

事務局

ありがとうございました。

議事進行は、検討会規約第7条第1項の規定に基づき、会長が議長になることとなっておりますので、お願いいたします。

議長

それでは議事に入ります。

発議

議長、議題(1)「令和2年度～令和5年度小学校使用教科用図書について」議題(2)「令和2年度中学校使用教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）」につきましては、調査員に係ることであり、また公開することにより教科用図書の採択に関して支障をきたすことがありますので、非公開として取り扱うべきと思います。以上です。

議長

本2件を非公開にしたいといった発議がありました。

本2件の議案を非公開とすることについて、採決してよろしいでしょうか。

全委員

異議なし

議長

ご異議ないようですので、採決いたします。
この2件を非公開とすることに賛成の方の挙手を願います。

委員

挙手（全員賛成）

議長

全員、挙手されました。
それでは全員賛成により、議題(1)「令和2年度～令和5年度小学校使用教科用図書について」議題(2)「令和2年度中学校使用教科用図書（特別の教科 道徳を除く）」につきましては、最後に非公開での会議といたします。
従いまして、「神奈川県教科用図書足柄上採択地区の採択に係る会議の傍聴人規約」の規定によりまして、傍聴人の方は退席することとなります。
それでは引き続き議事を進めます。

議題(3) その他

議長

事務局からは何かありますか。

事務局

事務局からは特にございません。

議長

委員の皆様からは何かございますか。
ないようですので、公開での会議は終了させていただきます。
恐れ入りますが、傍聴者の方はご退室願います。

(傍聴者退室)

議長

それでは非公開の会議を始めます。
まず、事務局から説明をお願いします。

事務局

これから、議題(1)「令和2年度～令和5年度小学校使用教科用図書について」については調査員が、議題(2)「令和2年度中学校使用教科用図書(「特別の教科 道徳」を除く)」については中学校教員代表が報告を行います。

教科にもよりますが15～20分の報告のあと、質疑応答の時間を設けさせていただきます。それぞれ20～30分程度を予定しております。

議題(1) 令和2年度～令和5年度小学校使用教科用図書について

議長

それでは、議題(1)「令和2年度～令和5年度小学校使用教科用図書について」です。

各市町での採択にあたっては、調査員の報告等に加えまして、この場での検討会委員の皆様のご意見も合わせて参考にさせていただきます。検討会委員の皆様には、ぜひ積極的にご発言いただきたいと思います。

まずは、「国語」の調査結果について説明をお願いいたします。

国語調査員

どの教科書会社も教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については考えられて作られており、かながわ教育ビジョンとの関連は4社とも「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会とかかわる力」に関連した内容になっていました。たくさんあるので、要点のみ報告させていただきます。

東京書籍について説明します。

言語能力の確実な育成について、活動における基本的な進め方などを取り上げた「言葉の力」が全学年に設定されています。第1学年では、文字の習得において、つまずきやすい、拗音、促音、長音を手拍子の図と記号で解説しています。学習の理解が深まるように、巻末に、読み物教材、学習で使う言葉、各巻の振り返り、前年度の学びなどが掲載されています。第1学年から第4学年までは上下巻の分冊、第5・6学年は1冊の合冊で編集されており、「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています」と記載されています。第1学年巻末の「あたらしくならったかんじ」では、漢字を大きく示しています。また、「独自に開発した教科書用の書体を使用しています」と記載されています。

学校図書について説明します。

全学年上下巻の分冊で編集されています。内容については、学校段階間の円滑な接

続について、第1学年の入門期は、動物の挿絵の教材から導入し、第6学年では、6年間の国語の学習を振り返る活動が掲載されています。情報の扱い方に関して、図化・表化・イメージマップなどの思考を整理する方法が発達段階に応じて示されています。

特徴としては、文章の内容をまとめたり、考えを整理したりするために、表の例示や構成を図で示しています。学習の理解が深まるように、巻末に「言葉の部屋」「読書の部屋」、読み物教材などを掲載しています。全学年、上下巻の分冊で編集されています。表記については、「できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました」と記載されています。

教育出版について説明します。

言語能力の確実な育成について、学年の発達段階に応じて、時と場に応じて使えるよう項目ごとに分けた、巻末付録「言葉のまとめ」が掲載されています。「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています」と記載されています。「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されています。特徴としては、文字の背景が白色ではなく色がついています。

光村図書出版について説明します。

言語能力の確実な育成について、何をどのように学習するのかを、学年の発達段階に応じた「学習の進め方」として示しています。学校段階間の円滑な接続について、第1学年の入門期では、絵を見て気付いたことを話す活動が設定され、第6学年では6年間で身につけた力を自ら振り返る活動が設定されています。学習の理解が深まるように、巻末に「たいせつ」(要点)のまとめや読み物教材が掲載されています。第1学年から第4学年までは上下巻の分冊、第5・6学年は1冊の合冊で編集されています。「全てのページについて専門家による校閲を行っています」と記載されています。「単元名や見出しには、ユニバーサルデザイン書体を使用しています」と記載されています。第1学年の巻末の「このほんでならうかんじ」では、漢字の書く数が記載されています。「本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています」と記載されています。今回、どの教科書にも共通して言えることは、巻末の付録にこれまでの学習してきたことの流れが整理してまとめてあり、段階的に国語の学びを積むことが大切だと書いてあります。また、文字が1年生の教科書の場合だとバリアフリーの書体となっており、大きく見やすいカラー使いになっていると感じました。説明については以上です。

議長

ただ今、調査員から説明がありました。ご質問等がございましたら、お願いいたします。

委員

内容等は各社ともに増えていましたか。現場の先生・子どもたちが増えた内容を時間的に確保できるのか心配するところです。特に新しい学習指導要領で重視されている。

子どもたちが主体的に学習するという点について、皆さんのご意見があったらお聞かせください。

国語調査員

内容につきましては、特別に増えている感じはありませんでした。教科書の作りがよくなっていて、主体的な学びを助けるような、授業の間に子どもが見て補助になるようなページ数は増えたが、うまく活用して行ければ授業をスムーズに進められ、時間内にいくのではないかという意見が調査員の間でありました。

委員

新しい学習指導要領の中では、教科の記録の観点として主体的に学習に取り組む態度、これが全教科入ってくると認識していますが、各教科書を見て評価の立場から例年と違った内容・構成がされているか、分かる範囲で教えてください。

国語調査員

主体的に取り組むためには、子どもたちが積み重ねていく力が必要だと調査員から意見が出ていて、算数や理科は前に学習したことを生かして系統立ててわかりやすいと思いますが、国語は活かしきれていません。これまでは見通しをもって指導しきれておらず、それが巻末の付録を見れば以前に学習したことがわかり、また単元の始めにも進め方が書かれているので有効ではないかという話しは出ていました。

委員

今回、QRコードが掲載されていますが、話題になったことがありましたか。

国語調査員

QRコードは話題になりました。QRコードへかざすと写真や動画が表示され進んでいると思いました。かなり便利になっていると感想が出ていました。

議長

他によろしいでしょうか。ないようなので、次に進みます。

引き続き、「書写」の調査結果について説明をお願いいたします。

書写調査員

書写は5社の教科書会社とも、教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については重きをおいて作られていて、かながわ教育ビジョンとの関連は各社で工夫した内容になっていました。書写は児童によっては取り組むことが難しい子がいるので、その点に対しても配慮した点が見られました。

東京書籍について説明します。

児童の学習上の困難さに対して、第2学年の「点画の名前」では、手本の漢字の点画と、名前が添えられている点画が同じ色で示されています。また、点画を書く練習する欄が設けられており、「とん」「びたっ」「すうっ」などの言葉で鉛筆の動かし方が示されています。判型はA B判で、図版が大きく提示されています。また、第3学年以上では、6年間で学習する書写の内容一覧がインデックスとして設定されています。「ゴシック体には、見やすく読みまちがいにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されています。

学校図書について説明します。

書写の学習で身に付けたことを他教科で生かした具体例が、各学年の巻末にある「書写の資料館」にまとめられています。児童の学習上の困難さに対して、第3学年「たて画とはらい」では、「木」を白抜き文字にして筆使いが示されているとともに、穂先の通り道が朱書きで書かれ、筆圧の強さが3段階の数字で示されています。全学年とも「学習の進め方」が3ステップと振り返りという流れに統一されています。「多くの人を使いやすいように、ユニバーサルデザインの観点に立ち、色使いやフォント、レイアウトなどに配慮して作成しました」と記載されています。

教育出版について説明します。

児童の学習上の困難さに対して、第1学年「にているひらがな」では、「あ」と「め」で同じ運筆の部分が同じ色で示されているとともに、「とめ」や「はらい」を「びたっ」「すうっ」という言葉で明示された画を指でなぞることが提示されています。判型はB 5判で、低学年は4つのステップ、中・高学年は7つのステップで学習の進め方が統一されています。表紙には、墨や汚れに強い撥水コーティングが施されています。「より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています」、「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されています。

光村図書出版について説明します。

児童の学習上の困難さに対して、第1学年「かん字のかきかた」では、線の終わりに気を付けて指でなぞることが提示されています。書き順が色別で示され、「とめ」「はね」

「はらい」の部分に「びたっ」「ぴょん」「すうっ」という言葉とキャラクターの動きが添えられています。「タイトルや『たいせつ』には、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています」と記載されています。

日本文教出版について説明します。

児童の学習上の困難さに対して、第4学年「筆順と字形」では、整った字形にするために、直しが必要な「左右」の文字が提示されています。筆順には数字がふられ、同じ画には同じ色が示されているとともに、画と人の体との関係がイラストで示されています。

判型はB5判で、低学年は3ステップ、中・高学年は6ステップの「学習の進め方」が設定されています。「カラーユニバーサルデザインに配慮しています」と記載されています。どの教科書にも硬筆から毛筆への段差を少しでも減らしたい考えから、1年生の教科書ではありますが、水筆用のシートが付いているものもあります。説明については以上です。

議長

ただ今、調査員から説明がありました。ご質問等がございましたら、お願いいたします。

委員

国語と書写の委員が同じメンバーなので、関連性を見ることができたのか。また、水筆を授業の中で活用できるのか。調査員の間ではどのような意見がありましたか。

書写調査員

関連性については、国語以外の調べ学習・観察記録・報告書に関して、書き方について書写でも触れています。見る人にとって美しい文字で、見やすい文字の大きさについてどの教科書にも盛り込まれていました。

水筆については、1、2年生の教科書にシートが貼られていて、1年生ではちょっと難しいかな、3学期の終わりころに挑戦してみようか、2年生になったら学期に1回、月に1回挑戦してみようか、鉛筆とは違う折れとか曲がりなど体験してから3年生になげられて行けたらという話題が出ました。

委員

報告は低学年の「文字を書く」に関して詳しくだったが、学年が上がってくると、人に見られる事を意識したまとめ方が6年生になると各社出てきたが、各社の特徴や調査員からどのような意見が出ましたか。

書写調査員

各教科書会社が工夫されていて、特に5、6年生は毛筆に力を入れていると感じました。見やすい表の出来上がりにつなげていくには、硬筆の取り扱いが教科書に載っているので、きちんと取り扱っていく必要があると思います。

委員

書写では、書く姿勢や鉛筆の持ち方が配慮されていますが、1年生の導入期に定着させるための工夫や、入門期だけでなく各学年に上がった時の先生の関わり方など全体的に話題になった事があったら教えてください。

書写調査員

鉛筆の持ち方は1年の初めからやるように、どの教科書にも写真入りで載っています。分かりやすいよう鉛筆の持ち方の合言葉「パチパチ」「トントン」「スー」等の擬音を使って表現しています。合言葉を使うと子どもが定着しやすくなると思います。

議長

他にはよろしいでしょうか。ないようなので報告ありがとうございました。

次は、「社会・地図」の調査結果について説明をお願いいたします。

まずは「社会」の調査結果について説明をお願いいたします。

社会調査員

3社あるので一社ずつ説明させていただきます。

東京書籍について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、教育基本法第6条に示されている「自ら進んで学習に取り組む意欲を高めること」に関連して、調べて考えたいくなるように工夫されており、「学習問題をつかむ・調べる・まとめる・いかす」を基本とした「問題解決的な学習」を分かりやすく進めていくことができるようになっています。学習指導要領の改善事項「伝統や文化に関する教育の充実」に関連して、伝統や文化を尊重し、我が国と郷土を愛する態度を養うことができる教材を随所に取り上げ、国や郷土への愛着を深めることができるようになっています。また、我が国の代表的な文化遺産や身近な地域の歴史事象などを積極的に取り上げ、我が国と郷土の伝統や文化への理解を深めるとともに、それらを尊重する態度を養えるようになっています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、様々な意見を踏まえて社会的問題を考えることができるように配慮されています。例えば、児童が調べ

てきたことをもとに、異なる立場について理解を深め、考えていく活動を提示しており、他者を尊重し、多様性を認め合うことができるようになっていきます。「社会とかかわる力」に関連して、学習成果を活用した学習活動の場面を中心に、実生活や実社会との結びつきを意識させ、よりよい社会づくりのために参画・貢献しようとする意欲や態度の基礎を養うとともに、社会へのかかわり方を選択・判断する活動が充実しています。実社会に生きる人々の姿を多数掲載し、社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実際に話を聞いたりする活動を充実させることができるようになっていきます。

内容については、防災・安全教育への取組についての具体的に例示されており、第3学年「くらしを守る」の単元での火災、事故及び事件について扱う中で、「生活安全」「交通安全」について理解できるようになっています。第4学年「自然災害からくらしを守る」の単元では、自助・共助・公助について考えることができるようになっていきます。第5学年「自然災害を防ぐ」では、国や自治体の対策や事業などが理解できるようになっています。第6学年「震災復興の願いを実現する政治」では、国や自治体の取組によって、復旧・復興が進められていることが理解できるようになっています。

伝統や文化に関する教育についての具体的な内容例示として、第3学年では、「市のようす」の学習で、古くから残る建物を多数取り上げ、地域に愛着がもてるようになっています。第4学年では「きょう土の伝統・文化と先人たち」で県内の文化財や年中行事と、地域の発展に尽くした先人の働きを示しています。第5学年では「国土の学習」の中で、琉球の文化やアイヌの人々の文化について取り上げています。第6学年では「世界遺産」「国宝」マークを設け、我が国の優れた文化遺産への関心を高めることができるようになっています。また、日本遺産についても取り上げています。

装丁については、表紙は強度の高い加工を施し、汚損しにくいように配慮されています。また、強力な接着剤と針金を用いた製本で、大きく紙面を開くことができるうえに堅牢な作りとなっています。5年生は上・下巻に、6年生は政治・国際編と歴史編の二冊構成なので軽くて持ち運びしやすくなっています。

表記及び表現については、すべての児童が使いやすく理解しやすいようになっています。例えば、本文と資料をはっきりと区別できるようにレイアウトし、目立つ箇所は文章を枠囲みにしたり、文節で改行したりするなど、すべての児童に見やすく読みやすくなっています。また、教科書の一部にユニバーサルデザインフォントを使用するとともに、小学生が読むことを考慮し、読みやすい大きさの文字にしています。さらに写真や図表などの資料には見開き単位で番号が付いており、児童が把握しやすいようになっています。見開きの適所に、ドラえもんのイラストが多数載せられていて「見方・考え方」の指標になっています。

教育出版について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、社会の変化や今日的課題が反映された事象が積極的に教材化されているとともに、そうした変化や課題に自ら対応する資質・能力を育成するという視点から問題解決的な学習となっています。学習指導要領の改善事項「伝統や文化に関する教育の充実」に関連して、地域や国の伝統と文化にかかわる内容が各学年に位置付けられています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、社会科の特質に応じた道徳教育の指導が効果的に行われることを意図して、地域や我が国の歴史や伝統と文化、多様な人々からなる社会の在り方について、多角的に理解や考えを深めていくことができるように編集されています。

例えば、太平洋戦争における沖縄戦の歴史やアイヌの人たちの歴史や文化の継承について取り上げており、他者を尊重し、多様性を認め合う力が養われるようになっています。

「社会とかかわる力」及び「たくましく生きる力」に関連して、社会の課題をとらえ、その課題の解決に向けて選択・判断したり構想したりしながら公民としての資質・能力を培い、社会参画に向けた意欲を高められるようにしています。例えば、学んだ事実を根拠にして自分なりの考えを表現しあう「選択・判断」や「構想」を具体化した場面には、「選択・判断」場面マークを付して学びやすくしています。

内容については、第3学年及び第4学年の巻頭に置かれた特設のコーナー「他教科とのかかわり」は、教科横断的に結ぶ社会科の特性を児童に意識付けています。

第3学年巻末の「わくわく！社会科ガイド」では、情報を集める方法の一つとして、インターネットや電子メールの利用を安全上の留意点とともに紹介しています。

領土に関する学習については、第5学年及び第6学年で学習指導要領に基づき、適切に記載されています。北方領土と竹島の領土問題や、尖閣諸島をめぐる問題に関わる解説や資料が掲載され、国土の範囲が重要であるとされる意味や問題について平和的な解決が日本にとって重要な課題であることなどが記載されています。

構成・分量・装丁については、「主体的・対話的で深い学び」に関連して、小単元の末尾にある「まとめ」では、様々な考えを関係図などに整理し、それを見ながら対話的な学習を行うことを通して再構成や定着が図られ、深い学びにつながるようになっています。年間の使用に耐えうる堅固な製本で、装丁にも汚れにくい加工が施されており、また環境への配慮から再生紙を用いて植物油インキとグリーン電力により印刷されています。3・4・5・6年各学年とも一冊の作りです。

表記・表現については、資料のネームには、ア、イ、ウ…の記号が付され、どの資料に注目すればよいのかを簡潔に指示することができるようになっています。ロービジョン（弱視）や読みに困難さがある学習障がいのある児童にも読みやすく配慮した「ユニバーサルデザインデジタル教科書体」が本文で、またそのほかにも用途に応じたユニバーサルデザインフォントが使用されています。さらに、中学年と高学年で書式を変える（ポイン

トの大きさ、行間の広さ) など、発達段階に応じて表現されています。当該学年以上の配当漢字や固有名詞、社会科用語には見開きごとに「ふりがな」を付すとともに、平易な文章表現や語句解説により、読解に負担がかからないようになっています。

日本文教出版について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、教育基本法第6条に示されている「自ら進んで学習に取り組む意欲を高めること」に関連して、問題解決的な学習の過程をわかりやすく示し、各所に交流場面を設定することにより、主体的・対話的で深い学びを実現できるようになっています。学校教育法第30条第2項に示された「基礎的な知識及び技能の習得」・「課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力の育成」・「主体的に学習に取り組む態度の育成」に関連して、生きて働く知識や技能の習得を目指して、子どもたちが社会的な見方・考え方を働かせる手立てとなる「見方・考え方コーナー」を新設し、「空間」「時間」「関係」の三つの視点から考えることができるようになっています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、今を取り巻く諸課題に取り組むことができるような教材が充実しています。例えば、第4学年では多文化共生をめざすまちづくりを、第6学年では障がいのある人の姿やユニバーサルデザイン、バリアフリー、少子高齢化に関する取組などを取り上げて学習できるようになっています。「たくましく生きる力」に関連して、主権者として求められる資質や能力を社会との関わり方を選択・判断する活動の設定や現代的な諸課題を豊富に取り上げることで育成できるようになっています。

内容については、これからの社会を担う子どもたちが、教科や校種の枠組みを越えて、現代的な諸課題に触れ、明るい未来を創造していくことができるように、少子高齢化や防災、情報化の進展、伝統・文化などの現代的な諸課題に対応していた内容となっています。「持続可能な開発」として、6年の最終単元末で、SDGs（持続可能な開発目標）を取り上げ、これまでの学習を振り返りながら自分にできることを考えることができるようになっています。

構成・分量・装丁については、学習がスムーズに進むように、基本的に1時間、1見開き構成になっています。製本は通常は無線綴じよりも丈夫なあじろ綴じが採用され、従来の針金綴じよりも本が大きく開くように改良されています。3・4・5・6学年とも一冊構成です。

表記・表現については、グラフ・地図については、一人ひとりの色覚の違いを問わず、多くの子どもたちに見やすいように、色調や色の組み合わせだけの区別ではなく、斜線やドットなども使用するなど、細部にまで配慮されています。ワード・固有名詞などの漢字には、最低限見開き2ページごとの初出にふりがなが付けられ、読みの抵抗を少なくするようになっています。説明については以上です。

議長

ただ今、調査員から説明がありましたが、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

委員

防災・安全教育への取組が多く見られましたが、特筆すべき点がありましたら教えてください。

社会調査員

基本的にどの教科書にも載っています。他社に記載されていないわけではなく、大きな違いはありません。

委員

内容に高学年で北方領土や竹島の領土問題が強く出されていますが、小学校の教育において重点的に授業で取り扱うことについてどのようなお考えですか。

社会調査員

難しいところだと考えております。地図帳では国境部分が白くなっています。文科省の学習指導要領に沿って教科書は作られているので、書かれていることを基本として子どもたちに指導していくことを考えています。

委員

防災・安全については各社で取り扱っているようですが、「地域学習」の視点で各社どのように取り扱われていますか。

社会調査員

地域学習については、県や市町で作成された本を活用しており、この辺りの事例は教科書にはあまり取り上げられていません。学習指導要領に合わせて指導しています。

委員

地域学習で中学年は県及び各市町の発行の資料（資料集）を使用していますが、高学年は購入して授業をしていますか。また、単元構成については、各社前期・後期の二期制となっていますか。

社会調査員

各学校によって変わってくるのではないのでしょうか。資料は必要となる単元、指導者の考え方のよって購入します。最近教科書の資料を活用し、インターネットで情報収集できるので購入しなくても済む事もあります。二期制については、各社ともそのようになっています。

委員

子どもたちは過去の出来事について資料を基にしながら現在・将来を考えることが重要だと思います。各社とも第2次世界大戦の取り上げ方について、資料の違いはありましたか。

社会調査員

大きな違いはないと思います。

委員

教科書会社によっては1冊あるいは2冊あるが、学校としての使いやすさの感想はありましたら教えてください。

ある教科書会社の構成・分量の項目で教科横断的なカリキュラム・マネジメントも行いやすくなっているとあります。来年度から学習指導要領で言われている「～教育」は横断的と言われてはいますが、他社はどう記載されていますか。

社会調査員

使いやすさについては、持ちやすさ、開きやすさはあります。5・6年生は重いですが開きやすいように工夫されています。使いにくいことはありませんでした。

2点目については他社にないわけではありません。各先生がうまく活用する事によって、子どもたちの意識の目が向くようにしてあると思います。

委員

社会的事象の扱いによっては、社会の中で一員としての自覚を養っていけるよう、グローバル社会の中で共に生きていくことが重要だと学習指導要領に明記されています。

扱いについて人権的な視点から、調査員さんから見ると難しさや配慮が必要だと感じたことがあれば教えてください。

社会調査員

社会科の授業をやりながら、道徳は全ての科目につながるものですから、道徳の指導を効果的に行うことを意識しています。

委員

各社の分量（中学校では地理・歴史・公民）についていかがでしょうか。

また、世界遺産・文化遺産など発表されていますが、今日的な話題であるとか、今日的な課題であるとか、各社によって取り上げる時期的な早さを感じることがありましたら教えてください。

社会調査員

分量については確認できませんでした。2点目の件ですが、2015年に国連からSDGsが発表されて、この言葉について述べられている会社もありました。ただ、SDGsという言葉はありませんが、内容について掲載してある会社もあったため、各社取り上げていると思ってよいと思います。

議長

他によろしいでしょうか。

引き続き、「地図」の調査結果について説明をお願いいたします。

地図調査員

東京書籍について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、教育基本法第2条の「伝統と文化を尊重し」に関連して、日本の歴史や伝統、文化に関する内容が多いです。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、世界の料理、オリンピックの開催地などの地図があり、多様性を認め合うような工夫がされています。

内容については、「カリキュラムマネジメント」に関連して、歴史学習で活用できるように、世界の歴史地図が掲載されています。「カリキュラムマネジメント」に関連して、世界地図では、ほとんどの国名や大陸、海洋名の欧文表記があり、外国語で活用できます。「主体的・対話的で深い学び」に関連して、索引にチェック欄が設けられており、積極的に活用できるような工夫がされています。

表記・表現については、市町村の記号の分け方が細かいと感じました。

帝国書院について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、教育基本法第2条に関連して、生涯にわたって地図帳を使いこなすための基礎力を育むように、「地図帳の使い方」が12ページにわたって示されています。教育基本法第2条に関連して、防災意識が高められるように、日本列島で起こった自然災害を学ぶページが設けられています。教育基本法第2条の「伝統と文化を尊重し」に関連して、日本の歴史や伝統、文化に関する内容が多いと感じました。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、男女平等の視点や、他者との協調を意識したキャラクターが登場します。

内容については、「主体的・対話的で深い学び」に関連して、資料の活用方法等が記載されており、必要な地図帳活用のスキル、社会科の知識や見方、考え方が3年生から身につくように工夫されています。「主体的・対話的で深い学び」に関連して、学習テーマに沿った資料のページが多く、まわりの資料と関連づけることで、学習を深められています。

構成・分量・装丁については、「広く見わたす地図」「都道府県を見る地図」「世界の地図」と配列され、発達段階に応じた学習を進めやすいです。説明については以上です。

議長

ただ今、調査員から説明がありました。

調査結果についてご質問等がございましたら、お願いいたします。

他に質問がなければ、よろしいでしょうか。

ないようなので報告ありがとうございました。

次は、算数の調査結果について説明をお願いいたします。

算数調査員

算数科の今回の学習指導要領における改訂のポイントについて、大きく分けて二点あります。一点目は「数学的活動のよりいっそうの充実」、二点目は「統計教育の充実」です。「数学的活動のよりいっそうの充実」については、問題を見出し、主体的に取り組む数学的活動の充実を図ること、数学と人間との関わりや数学の社会的有用性についての認識が高まるように配慮した学習内容を改善・充実している点です。もう一点の「統計教育の充実」については、社会生活などの様々な場面で必要なデータを収集・分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり、意思決定をしたりする能力を育成するため、小・中学校を通じて統計的な内容を充実している点です。

算数科の目標・内容を資質・能力の3つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」で整理しました。

それに伴いまして、領域の構成の見直しについては、今までは「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」で構成されていましたが、新学習指導要領では「数と計算」「図形」「測定（1年～3年）」、その続きとして「変化と関係（4～6年）」となっています。

これは、中学校の関数へのつながりとなります。最後に「データの活用」という領域が新たに加われました。今回は、どの会社も新学習指導要領に基づき作成されていますので、各社の特徴を中心に説明させていただきます。

東京書籍について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、新指導要領の3つの柱をベースに書かれていました。それぞれの単元の最後に「たしかめよう」が設定されています。他社も同様に設定されています。「算数マイノートを学習に生かそう」が設定され、課題解決の過程や説明の仕方等が掲載されています。どのようにノートを作成したらよいのか、その例が書かれています。例えば、問題・自分の考え・友達の考え・まとめ・振り返りといったノートの書き方が記載されています。また、工夫するためのポイントも丁寧に書かれています。「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、学習の振り返りとして、学習の価値付けや、次の学びに向かうような発言をする児童のイラストが随所に掲載されています。具体的には～が分かった、次は～といった児童のイラストが書いてあり、児童がどのように考えるかを学習できるようになっています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「社会とかかわる力」に関連して、第6学年の「データの調べ方」では、学習の仕上げとして、データを整理して、自分たちの生活を見直す例が掲載されています。具体的な手順としては、「問題を見つける」「調べる計画を立てる」「データを集める」「データを分析する」「結論」を出し、その結果を図やグラフに表す手法で書かれています。

内容については、学校間の円滑な接続に関して、第1学年ではスタートカリキュラムとして別冊が設けられ、児童が楽しく自信を持って学べるように工夫しています。1年生の別冊の教科書だけA4判で大きく、「なかまづくり」「なんぼんめ」の2単元で、おはじきを用いたり、ブロックを置いたり、線をつないだり、数字を記入したりして学習できるように大きな教科書となっています。

構成・分量・装丁については、「視認性を一層高めた新開発のユニバーサルデザイン教科書体を使用しています」と、どの教科書にも記載されています。

大日本図書について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、習得した見方・考え方をメモする「ひらめきアイテム集」が設けられ、その後の学習に活用できるよう構成されています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「社会とかかわる力」に関連して、第1～3学年では、学習したことを家庭や生活にも生かすように促す「おうちでさんすう」が設けられています。

内容については、主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決学習の流れを示した「算数まなびナビ」や多様な解決方法を比較検討する活動「じっくり深く学び合う！」が設けられています。順番の流れとして、「問題をつかもう」「自分で考えよう」「学び合おう」「まとめよう、使ってみよう」「ふりかえろう」という流れになっています。ど

の教科書も同じですが、特徴としては、ページの問題の横に書かれているので、より具体的であります。全学年に「プログラミングにちょうせん！」が設定されています。例として、1年生はめいろをつくろう、2年生はすごろくゲームといった簡単なものから5年生になると正多角形の作図や6年生は比例のグラフの作成をパソコンを用いて授業を行う設定となっています。

学校図書について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、第2学年以降の巻頭の「3つの学びの力をそだてよう」では、3つの力の具体例が掲載されています。主体的・対話的・深い学びの3つです。「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、学習したことを生活や社会の中で活かしていくため「生活にいかそう 深めよう」が設定されています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、第2学年以降の「3つの学び方で学習を進めよう」では、自分の考えと同じ点や、他の児童の考えの長所を考える場面が掲載されています。自分の考えを持つことは大事であるのと同時に、友だちの考えを受け入れ、柔軟に考えていくことも大切であることが書かれています。

内容については、全学年に「プログラミングの〇」が設定されています。ここでは、各学年に言えることですが、「筋道を立てて考えることが大切である」と書かれています。

1年生ではロボットに前後左右に指示を出す、5年生では正多角形の書き方について書かれており、パソコンを用いないものとなっています。「深めよう」やコラムなどでは、学んだことを生活場面に活用することで算数のよさが実感できるようになっています。例えば、3年生では買い物をして金額を支払い、お釣りをもらい、もらう枚数を少なくするとか、6年生では縮尺や実際の移動時間を考えたりすることが書かれています。

構成・分量・装丁については、AB判で第1～5学年は、上下巻の分冊であり、第6学年は別冊があります。

教育出版について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「知識・技能」の習得に関して、典型的な誤答に対して「考えるヒント」が示されたり、学年を越えて既習事項が確認できる「学びのマップ」が設けられたりしています。「学びのマップ」ですが、今までの学年で使ってきた算数の見方を確認する内容が書かれています。「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、第4学年以降では、学んだことを生かして探究的に取り組める「広がる算数」が設けられています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「たくましく生きる力」に関連して、情報化の観点から、第6学年の「広がる算数」では、並べ方と組み合わせの発展で、安全なパ

スワードを考える題材が設定されています。内容としては、6年生の角柱と円柱の体積を3Dプリンターで考えたり、パスワードの安全性について、4つの数字の場合は1万通り、3つの数字+アルファベットの組み合わせだと26万通りとなることの例が書かれたりしています。

内容については、第1学年の長さ比べとかさ比べ、2年のたし算とひき算など、同じ考え方を扱うものを一つの単元で扱っています。巻末の「学びの手引き」に繰り返し使える事柄（ものさしの使い方や学び方マップ、算数のミカタなど）がまとめられています。例えば、「コンパスの使い方」「垂直及び平行な直線の書き方」「分度器の使い方」について確認できるようになっています。

構成・分量・装丁についてはB5判で、第2～4学年は上下巻の分冊です。第1、5、6学年は合冊です。「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されています。

表記・表現については、落ち着いたタッチのイラストを使い、児童が学習に集中できるよう配慮しています。学年が上がるにつれて、問題に添えられた絵が写真になっていき、児童の発達段階に合わせて情報量を調節しています。

啓林館について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、図や表、式などを中心に学習するページが設けられ、立式の根拠や操作の手順などを説明する活動が設定されていて、他の教科書よりページ数が多く設定されています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「社会とかかわる力」に関連して、第6学年の「ひろがる算数」では、ピアニストなど様々な職業に就く人々にインタビューし、仕事と算数の関係について掲載されています。例えば、「オリンピックのエンブレム作成」「プロ野球のデータ」「パティシエ お菓子作りの材料の分量」など、仕事と算数の関係が書かれてありました。

内容については、第2学年以降、各学年の巻頭に「学習の進め方」が書かれています。他の教科書も書いてありますが、学習の視点が詳しく掲載されていました。

第2学年以降、単元末「ふりかえろう」で児童の振り返り例が載っています。例えば、「分かったこと」「初めて知って驚いたこと」「おもしろかったこと」「次にしてみたいこと」が振り返りの視点として、具体例として書かれてありました。

構成・分量・装丁については、B5判で、第2～4学年は上下巻の分冊です。

表記・表現については、写真や絵が適度な量であり、紙面が見やすいです。これは、「図」や「計算のきまり」が多く掲載されていたり、数直線と関係図など、複数の図で考えたりできる点も特徴的でありました。

日本文教出版について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「知識・技能」の習得に関して、単元末の「分かっているかな？」では、学習内容の確実な定着が図れるよう間違いやすい問題が設定されています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、各学年とも、「自分で みんなで」の中に「学び合おう」が設けられ、他者の多様な考えを認め合う場面が設定されています。

内容については、主体的・対話的で深い学びとなるように、児童が考え、話し合い、答えを導き出すまでの学習展開が示された「自分で みんなで」が設定されています。

随所にある「なるほど算数」で算数への関心を高めるいろいろな話を紹介しています。

構成・分量・装丁については、補充や発展問題として、巻末には、「算数マイトライ」が設定されています。これは、3つのレベルで示されてして、「チェック」「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」で設定されていました。判型は、B5判で、第1～5学年は上下巻の分冊です。第6学年は合冊です。

表記・表現については、各単元の導入のページで、その単元で考えさせたい問いを端的に表現しています。言葉が短めでわかりやすく書かれていました。また、目次が見やすく、写真や絵が適度な量であり、紙面が見やすく感じました。説明については以上です。

議長

ただ今、調査員から説明がありましたが、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

委員

数学的活動の充実及び統計的活動の充実ということから、活動の部分を重視することは算数・数学の観点から大切だと思います。一点目は、充実されたことにより、授業数について調査員で話題になりましたか。二点目は、プログラミング学習について、説明していない他社の取組について何か感じるものがあれば教えてください。

算数調査員

内容が増えていることではないので、授業数について話題にならなかったです。プログラミング学習については、プログラミングという名称では書かれていませんが、「数量が図形の感覚を豊かにする」「表やグラフを用いて表現力を豊かにする」必要な場面においてはコンピュータを活用するといったことから内容には入っていると思います。

委員

どの会社も楽しく学べるように作っているとは思いますが、子どもにとって算数が好きになってもらうための方法は何か考えていますか。また、数学との関連性について、先生方はどのように考えていられるのか。また、教科書の大きさはそれぞれどう思いましたか。

算数調査員

好きになってもらうには、算数の良さ、楽しさを感じてもらえるよう心掛けています。数学へのつながりについては、どの会社も復習問題や発展問題がありました。教科書の大きさについては、2冊に比べると1冊の方がページ数は当然多いです。教科書会社ごとにそれぞれ特性があると思います。

委員

特定領域、図形領域について、具体的に教えてください。また、他教科との関連を考慮したとありますが、社会科との関連性が強いと思いますが、他の教科との関連性があれば教えてください。

算数調査員

図形については、入れ物に水を入れるかさの量を調べること、実際に1km歩いてみて長さを体感することなど実際に体験できる構成となっていたことです。他教科との関わりについては、都道府県の人口密度、理科では気温と音速の関係などが見られました。全般的に理科と社会の関わりが多かったです。

委員

ノートの手書き方について各社提示されていますが、ノートの必要性について調査員の中で何か意見はありましたか。

算数調査員

特に意見はありませんでしたが、脳の中に履歴を残し、しっかりまとめをする。また、ノートを活用することにより、振り返り学習ができ、学びとして蓄積されるので、ノートを活用することは効果的であると思います。

委員

高学年のカリキュラムに数直線の授業に教える時間を多く取っていることについて、何か調査員の間で話題になりましたか。

算数調査員

特徴的なことは、数直線だけではなく、関係図や線分図、計算の決まりなど、かなり多用しているところでした。

議長

この辺りでよろしいでしょうか。
では、報告ありがとうございました。

次は、理科の調査結果について説明をお願いいたします。

理科調査員

理科の教科書の特徴についてお話しさせていただきます。

新しい学習指導要領の中で、主体的・対話的について、どの教科書会社もイラストを用いて、対話的に書かれています。ページによっては、漫画のように会話しているものもありますが、決して漫画のようなものではなく、実際に子どもたちが会話しながら学習していくための手助けとして構成されています。もう一つは、「深い学び」についてどの教科書会社も突出していることは、学習内容に対して、実験結果の記述だけではなく、これがどのように生活につながっていくのか、それに関わっていく人々について記述されています。例えば、メダカの生態を観察するだけでなく、メダカのたまごをかえす時に、メダカを守る人たちにも着目している記述もありました。では、特徴的だと感じた箇所について説明します。

東京書籍について説明します。

構成・分量・装丁について、「オモテ面」で自分で考えた後、ページをめくった「ウラ面」で対話を通して思考を広げ、深めるという構成になっています。各単元の冒頭の「レッツスタート！」ではこれから学ぶ内容が示されています。また、問題解決のプロセスが紙面の端に「学びのライン」として示されています。児童の学習上の困難さへの対応に関して、巻末にこれまで学習した器具などの使い方が順序立てて示されています。

表記・表現については、「ユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されています。また、第6学年では、巻末に人体模型の工作の付録があります。判型はA4であり、写真、図、文章等が大きく記載されています。各単元の導入のページでは、本文のすべての漢字にルビが施されています。言語能力の育成に関して、題材の冒頭に対話を通して思考を広げたり深めたりしていく様子がイラストや写真で例示されています。

大日本図書について説明します。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、第6学年の「生

物と地球環境」など、持続可能な社会に関連する場面では「E S D」マークが表示されています。「たくましく生きる力」に関連して、英語マークを活用し、海外や地球規模の情報・資料など国際理解を深める内容が取り上げられています。「社会とかかわる力」に関連して、各学年の「理科のたまてばこ」では、「理科としごと」マークが設定されており、理科に関係する職業の話題が掲載されています。

内容については、主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決の場面では、他の児童の考えに触れ、自分の考えを見直しながら学習を深めていく対話の例が示されています。伝統文化に関して、「伝統マーク」が設定されています。第6学年では、「理科のたまてばこ」で昔からの鉄づくりが取り上げられています。情報活用に関して、第6学年では、「私たちの生活と電気」の単元の中で、「プログラミングを体験してみよう！」が設けられています。

学校図書について説明します。

第6学年では、「電気と私たちの生活」の単元の中で、LEDを点滅させるプログラムについて例示されています。QRコードで専用ソフトがインストールできます。オリンピックの聖火の点火方法を取り上げ、オリンピックへの関心を高められるように工夫しています。

構成・分量・装丁については、問題解決の過程がページの端にバーで示されており、児童が自分で確認できるようチェック欄が設けてあります。観察、実験の結果からわかったことと解説が分けて示されており、構成が工夫されています。

表記・表現については、ページを開かなくても1年間の学習内容が見通せるように、裏表紙に目次が設けられています。また、裏表紙には長さを測るためのものさしが設けられているなどの工夫があります。各単元の最初のページには、紙面の端に全学年の巻末の「考えよう調べよう」では、理科の学習で大切な事柄についてインデックスとともに示されています。

教育出版について説明します。

内容については、教科書の内容と関連のあるコンテンツを集めたウェブサイト「まなびリンク」を開設し、教科書に「まなびリンク」マークやアドレス（QRコードなど）を付けています。

構成・分量・装丁については、各学年とも巻頭「学習の進め方」が設けられており、また問題解決の順序が示されています。また、「ノートの取り方」では、「学習の進め方」に対応した例示がされていて、主体的に学習に取り組めるよう配慮されています。それぞれの単元の中で、各学年で主に育成をめざす問題解決の力について、第3学年は「見つけよう」、第4学年は「予想しよう」、第5学年は「計画しよう」、第6学年は「結果から考えよう」で、児童と先生のキャラクターが対話を通して例示してあります。

表記・表現については、各学年とも、裏表紙に「安全の手引き」が記載されています。

また、「ユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されています。各学年とも、裏表紙に「安全の手引き」が記載されています。目次の単元の番号が、領域ごとに色分けされています。

啓林館について説明します。

内容については、主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決のプロセスの中で、児童のキャラクターによる対話を通して学んでいく様子が例示されています。情報教育に関して、第6学年では「プログラミングを体験しよう」が設けられています。

巻末のプログラミング用シートとシールを使った学習例が示されています。

構成・分量・装丁については、各学年とも、巻末の「理科の考え方をはたらかせよう」では、科学者の具体例を交えながら、その学年で主に育てたい問題解決の力が示されています。器具の使い方などの動画コンテンツがQRコードを読み取ることで視聴できるよう工夫されています。

表記・表現については、中学校マークや他教科関連マークが設定されています。「注意」を表すマークとして、「かん気」や「強い光」など数種類の具体的なマークが設けられています。「ユニバーサルデザインフォントを採用しています」と掲載されています。説明については以上です。

議長

ただ今、調査員から説明がありましたが、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

委員

子どもたちが実験や観察を行うにあたり、体験的な学習の重視という視点で何か特徴的な内容がありましたか。

理科調査員

「これをやってみよう」と言って、最初に活動を入れて考える工夫をされているものがありました。難しいのは人体の場合、何をやったらいいのか考えてしまいがちですが、漫画などをとおして体験したこととして考え、写真を活用した工夫がされています。

委員

各社の実験の数などバランス的にはいかがでしょうか。

理科調査員

実際数は数えていませんが、イメージとして考えますと、実験よりも実験を踏まえて

児童に考えてもらう作りになっているようなイメージでした。

議長

質問がなければ、よろしいでしょうか。

ないようなので報告ありがとうございました。

これで午前の部が終了しました。午後は1時より開始しますので、よろしくお願ひします。

～昼食～ 12：05～13：00 55分間

午後の部

議長

次は、生活の調査結果について説明をお願いいたします。

生活調査員

東京書籍について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「知識・技能」の習得に関して、「やくそく」や「かつどうべんりてちょう」などに、安全・暮らし・健康、挨拶、気持ちの伝え方、道具の使い方など、学習に即した習慣や技能を身に付けられるように多様な資料が掲載されています。「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、活動の目当てが「?～かな」などの問いかけで始まる文が多数あり、子どもたちの考える場が示されています。「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、ものや人と関わる中で、感じたことや発見したことを大切にして、これからの生活に見通しを持つ題材「やってみよう」が提示されています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、イラストの中に外国につながりのある子や体の不自由な子が一緒に学び合う姿や高齢者の方との触れ合う姿を掲載して、他人を思いやり多様性を認め合う姿が掲載されています。「たくましく生きる力」に関連して、社会の一員として誰とでも仲良く生活できるよう「かつどうべんりてちょう」に挨拶の仕方や気持ちの伝え方などの具体例がイラストとともに示されています。「社会とのかかわる力」に関連して、公共施設の探検から地域の探検に広がっていき、そこで働く人と触れ合う活動事例が取り上げられています。

内容については、スタートカリキュラムでは、幼児期に育った力を生かし、生活科を中心とした合科的な指導を行い、各教科へつなげることが意識されています。他教科との関連的指導が行える活動例が掲載されています。また、中学年への見通しを持てるよう社会や理科、総合的な学習の時間へのつながりが見えるようにしています。キャラクターが、思考を促したり、活動のきっかけを与えたりする視点を与えています。上巻では、個の気付きや願い・思いなどがつぶやきの例示として示されています。下巻では、学びを深める場面で、友だちとの対話の中で解決していく場が例示されています。

構成・分量・装丁については、季節の流れを軸にして、時系列で単元が配列・構成されています。めくりながら植物の生長が分かる変形ページを入れています。上巻末に屋外での活動に使える「ほんとうのおおきさポケット図鑑」があります（取り外し可）。

表記・表現については、イラストが落ち着いた淡い色合いで統一されています。見せたい部分を写真にして、浮き立つようにしています。小単元名やマーク、記録カード、「やくそく」など各要素の位置が固定されています。

大日本図書について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「知識・技能」の習得に関して、巻末の「がくしゅうどうぐばこ」には豊富な資料を掲載し、活動している時にすぐに活用できる基本的な知識や技能を取り上げ、楽しみながら学べるようにしています。「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、子どものイラストの会話に投げかけや気付きにつながる言葉が使われています。「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、単元の終末ページにイラストと吹き出しで、生活に活かそうとする姿を取り上げています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、うさぎやモルモットなどの小動物を飼育する中で直接触れる、えさやりをする、掃除をするなどの活動を通して命のあたたかさを感じ取ることができるような内容になっています。「たくましく生きる力」に関連して、下巻末「がくしゅうどうぐばこ」の中にある「せかいのなかま」の項目では、世界の子どもの姿や挨拶の具体例、なかよしクッキングでは、栽培した野菜などの調理例などを紹介しています。「社会とのかかわる力」に関連して、まちたんけんの中で、いろいろな仕事をしている人に気付くことから始まり、その働く人との交流、取材、まとめ、発表という一連の活動を通して地域の人と積極的に関わろうとする内容になっています。

内容については、スタートカリキュラムでは、幼稚園や保育園で慣れ親しんだ遊びを通して仲間づくりが進められるようにしています。活動内容に関する言葉が「せいかつのことば」や「きらきらことば」に紹介されており、語彙を増やすための手立てや友だちとの交流を深める手立てとして位置付けられています。キャラクターが、活動を促すヒントや活動に際しての注意点・安全やマナーについての投げかけを行っています。モノクロの写真や接写した写真を使って子どものイメージを膨らませる手立てがとられています。

構成・分量・装丁については、季節の流れに沿った大単元構成で、季節と活動を結び付けています。透明シートを使った夜と昼の比較や探検ライト、探検カメラなどの仕掛けが用意されています。各見開きのページの左側に赤い風船マークがあり、活動課題を具体的に提示して、見通しを持って学習を進められるよう構成されています。

表記・表現については、見開きで写真を掲載しており、色遣いもしっかりしています。

学校図書について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「知識・技能」の習得に関して、多様な学習活動を掲載しています。また、児童のワークシートなどの記録例も掲載しており、巻末の「まなびかたずかん」と併せて読むことができるようになっています。「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「わたしのあさがお」や「作ってあそぼう うごくおもちゃ」などの単元で、キャラクターが思考を促すつぶやきを

して、児童に考えさせる活動を例示しています。「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、大単元の最後には、それまでに書き綴った記録カードを振り返り、自分たちがこれからやってみたいことや思ったことを出し合い、考える題材が設定されています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、体の不自由な人、高齢者、身近な幼児など、多様な人々との関わりを写真で掲載しています。「たくましく生きる力」に関連して、挿絵や写真の中に外国の人が登場したり、外国語と日本語がともに示されている看板を掲載したり、異文化に触れる内容を設定しています。

「社会とのかかわる力」に関連して、地域探検で町のすてき探しから公共施設や地域の店に目を向け、その後そこで働く人々と関わる活動に向けるという２段階を踏む構成にして取り上げています。

内容については、児童が活動を通して気付いたことや思いを、カードや作文、手紙、劇化などの様々な方法で表現するようになっていきます。導入ページが、「がっこうだいすき」として、学校生活にスムーズに適應できるようにイラストと短い文で構成されています。巻末の「まなびかたずかん」は、上下巻で２年間を見通し、意識して活動に取り組めるようになっていきます。植物や昆虫の名前が絵や写真と共に掲載され、発見したものを自分たちで調べることができるようになっていきます。４人の児童が話し合う言葉から対話の仕方が提示されています。

構成・分量・装丁については、記録例が、児童の発達段階を考慮したものになっており、どのように書けばよいのかわかりやすく示されています。本文の見出しやカードの位置が同じように配置されています。「探検」「栽培・飼育」「遊び」「成長」の４つの大単元に構成されています。

表記・表現については、各単元の初めには見開きのページを使って大きな写真を提示し、活動への興味が持てるようにしています。

教育出版について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「知識・技能」の習得に関して、単元ごとのコラム「やくそく」や、巻末の「学びのポケット」で、「生活上必要な技能」が取り上げられています。「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、児童と同じ目線で一緒に学習するキャラクターが設定され、考える働きかけがされています。「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、自分ができるようになったことなどを書くことで、自信を持ってこれからの学びに向かうための活動例が示されています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、「図書館の探検」や「わたしたちのまちのくふう」で、まちの中のバリアフリーを写真やイラストで取り上げています。「たくましく生きる力」に関連して発達段階に応じ、パソコンやタブレットなどのICT機器を活用した学習活動が取り上げられ、具体的な写真も掲載さ

れています。「社会とのかかわる力」に関連して、町で働く人がなぜ笑顔なのかを調べるために、インタビューしたり仕事にチャレンジしたりする活動を単元化し、取り上げています。

内容については、保護者へ生活科の教科目標が説明されています。他教科との関連として、「コラムはってん」の「社会科へのまど」「理科へのまど」で、生活科の学びの中学年以降へのつながりを示しています。スタートカリキュラムで、幼稚園で身に付けた資質・能力を小学校で発揮する姿が紹介されています。虫探しの単元で手洗い、気をつけることの記載がされており、写真を掲載するなど、安全面に配慮がなされています。

単元最後に、「おもちゃの作り方図かん」や「生き物の育て方図かん」など、必要に応じて資料が掲載されています。

構成・分量・装丁については、季節の流れを軸にして、時系列で単元が配列・構成されています。「まんぞくはしご」で自分の学習の振り返りをすることができる構成になっています。

表記・表現については、色遣いがはっきりしています。また、多様な写真が使われており、適切な大きさです。

光村図書について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「知識・技能」の習得に関して、着目・考えさせたいポイントが、ページの下や横に、「どうすれば」というコーナーとして取り上げています。「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、習得した「知識・技能」を発展させる投げかけが随所にあり、巻末の「ひろがるせいかつてじん」にもまとめて取り上げています。「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、シールを用いて1年間でできるようになったことを振り返り、今後の自分にできることを探す題材が設定されています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、自分のできようになったことを振り返り、友だちにも目を向け、お互いの良さを伝えられるような内容になっています。「たくましく生きる力」に関連して、地域の公共施設や店、そこで活動する人とのふれあいを通して、地域への親しみや愛着がもてるような活動が設定されています。「社会とのかかわる力」に関連して、自然と関わる体験活動への意欲を高めるため、上・下巻「きせつのおくりもの」で、定位置の季節の写真などで四季の変化を示しています。

内容については、巻末に「ひろがるせいかつてん」が設けられており、他教科との関連が図られています。児童が小学校生活を安心して始められるよう、入学当初の活動をイラストや身近な写真で示されています。毎日の生活に対して、児童のワクワクする気持ちと期待感が引き出せるようにしています。単元の中のどこを学習しているかが把握できるように、ホップ・ステップ・ジャンプの3段階構成になっています。また、児

童が見通しを持てるような活動例を紹介しています。児童が日常使う言葉で吹き出しが書かれています。

構成・分量・装丁については、「きせつのおくりもの」、QRコード記載があり、季節の昆虫や植物を見られるようになっていきます。振り返りのシール欄があり、一年間を振り返ることができる構成になっています。春夏秋冬を比較できるように、同じ構成の絵を用いています。

表記・表現については、柔らかい色遣いであり、イラストが多く使われています。

啓林館について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「知識・技能」の習得に関して、「がくしゅうずかん」で調べ方・記録の仕方など、学習の仕方のアドバイスが示されています。「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、単元の中で児童の思いや願いから、毎時間のつながりを意識して指導計画が例示されています。「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、単元末で学習の振り返りを促す欄が設けられています。また、学習を通して学んだことを、より深めたり生活に活かそうとしたりする姿を示しています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、イラストで車いすを使用する児童が登場し、ともに活動している様子が紹介されています。「たくましく生きる力」に関連して、児童の異文化への興味関心が高まるよう、多様な言語のあいさつなどが掲載されて、国際化につながるよう意識されています。「社会とのかかわる力」に関連して、地域の働く人と触れ合ったりインタビューをしたりしながら、働く人に親しみや愛着が持てるような活動を取り入れています。

内容については、「わくわくぼっくす」では、児童の興味が持てるように問いを工夫しています。上巻「すたあと ぶっく」では、就学前の写真があり、小学校との関連を図っています。また、小学校がどのようなところであるか写真を中心に紹介しています。

下巻「ステップブック」では、できるようになったことを振り返り、自信を持って進級できるようにしたり、中学年以降の教科へのつながりを示したりしています。吹き出しが多く使われ、キャラクターが気付きの促しや疑問の投げかけ、安全上の留意点などを示しています。「めくり言葉」は、気付きや活動の思い、願いを児童の言葉で記し、次の活動ヒントになっています。

構成・分量・装丁については、QRコードを用いて、学習内容についてさらに詳しく調べることができるようになっていきます。「すたあと ぶっく」の角が丸みを帯びています。

表記・表現については、各単元の初めには見開きのページを使って大きな写真を提示してあるのと同時に、活動への見通しが持てるような小さな写真も掲載されています。

「小単元名」「本文」「カード例」などの位置は原則固定されています。

日本文教出版について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「知識・技能」の習得に関して、巻末の「ちえとわざのたからばこ」では学び方や自然や生活の中で使える知識や知恵、技について知ることができるようになっていきます。見開きページの右端に関連する知識を習得できるようページが記載されています。「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、植物の生長が見える仕掛けにより、植物を比べながら考えることができるようになっていきます。「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、「ふりかえる つなげる」で学んだことを生活に活かしたり発展させたりするための投げかけがあります。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、街の工夫として体の不自由な人の生活に目を向けた写真やイラストを掲載することで、子どもたちの意識や関心を引き付けるようにしています。「たくましく生きる力」に関連して、育てた野菜をおいしく食べるための調理方法や大豆を使った料理の紹介では、いろいろな地域の郷土食などを紹介しています。「社会とのかかわる力」に関連して、地域の公共施設に出かけたり働く人に取材したりする場面が設定されています。さらに調べたことを地域の人に発表している活動を紹介します。

内容については、「いちねんせいになったら」では、たくさんの写真で小学校とはどのようなところかを紹介しています。また、2年生の最初にも「2年生が はじまるよ」のスタートカリキュラムを設定し、新1年生との交流を位置付けています。注意することを側欄の右上に示し、学習の中でイラストによって確認できるようにしています。親しみやすいキャラクターが留意点や思考を促すヒント・学習のポイントを示しています。

構成・分量・装丁については、「きれいなはなをさかせたい」では、教科書を山折りすることで、植物の生長を段階的に見たり、他の植物との違いを比べたりできるようになっています。春夏秋冬を比較できるように、同じ構成の絵を用いています。「いちねんせいになったら」では、ページが丸みを帯びています。

表記・表現については、「ユニバーサルデザインに配慮しています」と記載されています。写真の下に短い文を入れ、何を示しているものなのかを明確にしています。説明については以上です。

議長

ただ今、調査員から説明がありましたが、ご質問等がございましたら、お願いいたします

委員

各会社ともスタートプログラムとして取り入れていますが、教育課程の内容と実際に

児童が学校での実生活とは差異があると思います。各会社はそのギャップを埋める工夫がされているのかどうか、感じたことがあれば教えてください。

生活調査員

調査員で話題になったことはありませんが、写真やイラストを使うことによって、子どもたちがどのような生活を送るのがわかるように配慮されていると思いました。各社とも幼稚園からのつながりを大切にしています。特に、幼稚園から小学校へ入学する時に、段差が生じないよう配慮されていると感じました。

委員

イラストと写真との違いで話題になったことはありますか。

生活調査員

写真は実物ですが、イラストはかなり緻密に書かれています。

委員

ウサギやモルモットという具体的に言葉が出ていて、また、同じ視点でICTの活用という言葉が出ていますが、各社とも言葉として出ているのですか。

生活調査員

全体的に言葉として出てきていますが、特に色濃く表現されていた会社もありませんでした。

議長

質問がなければ、よろしいでしょうか。

ないようなので報告ありがとうございました。

次は、音楽の調査結果について説明をお願いいたします。

音楽調査員

教育芸術社について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮に関して、単元の中の題材を行き来しながら、知識・技能を修得できる構成になっています。未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、子どもたちの気付きから対話を促し、試行錯誤して表現や鑑賞につなぐことができる構成となっています。「学びに向かう力・人間性等」を涵養

するための工夫や配慮に関しては、世界で活躍する人の言葉や写真に触れ、人と音楽と社会の関係性について考える題材が掲載されています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる心」を育むために、各単元において鑑賞と表現を結び付ける単元構成になっています。「たくましく生きる力」を育むために、古くから大切にされてきた伝統文化や音楽・地域の祭り等を紹介し、それぞれの良さを活かして、より良いものを求めて社会と積極的に関わろうとする姿勢を育てるものになっています。

内容については、見通しをもった学習ができるよう、巻頭に掲載された「音楽の木」によって、学習活動の系統性が内容ごとに示されています。言語活動に関して板書例とともに学習内容が示されています。表現や鑑賞の題材には、児童が気付いたことや感じたことを記入する欄が設けられています。主体的で対話的な学びの観点から、各題材で考える観点が吹き出しで例示されています。

構成・分量・装丁については、表現・鑑賞ともに、紙面右下に音楽の要素が示されています。一つの単元の中で、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞とそれぞれ関連し合い、系統的に学習が行えるよう構成されています。判型はA4判で、学習目標が左上に掲載される形で統一され、他の文字よりも大きく表示されています。

表記・表現については、特別支援教育や色覚特性の多様性等、ユニバーサルデザインの観点から、白を基調とした紙面や情報の配置に配慮しています。写真やイラスト上の文字・絵譜については、デザイン性を考慮しつつ、見やすさにも配慮しています。

教育出版について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮に関して、一つの題材を終えるごとにステップアップしていける単元計画が成されています。未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多彩な資料から自分たちで考え、より良い音楽を作ろうとする姿勢を育むような活動が設定されています。「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮に関しては、世界で活躍する人の言葉や写真に触れ、個性を尊重した表現のよさについて学ぶ機会が設定されています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる心」を育むために、様々な人々との共生について理解を深める観点から、パラリンアートを掲載しています。「たくましく生きる力」を育むために、友だちとの協働活動を通して、共感したり音楽を楽しんだりする題材が設定されています。

内容については、「学びあう音楽」の項目では、仲間と表現の工夫を深められるよう、学習の手順や、話し合うテーマが例示されています。言語活動に関して「音楽のもと」「音楽を表すいろいろな言葉」では、表現や鑑賞の学習に活用するための「音楽の要素」に関する用語がまとめられています。日本の伝統音楽への関心について「につぼんのおう

た「みんなのうた」として、共通教材や四季の歌等取り上げています。また、Short Time learning の中で外国語の歌にも触れる機会を設け、教科横断的な学習が行えます。情報活用に関して、調べ学習の際に図書館やインターネット（まなびリンク）の活用を推奨し、ルールやマナーについても注意喚起しています。

構成・分量・装丁については、主要部分と選択可能なオプション部分により構成されています。また、その割合が明確に設定されています。一つの单元の中で歌唱・器楽・鑑賞・音楽づくりと関連し、系統立てて活動するよう構成されています。1・2学年はA B判、3学年以降はA 4判と区別するとともに、2学年ずつの内容のまとまりを持たせ、就学前や中学校の学習との関連を持たせています。

表記・表現については、ユニバーサルデザインの観点から、色覚等の特性を踏まえた判読しやすい配色やレイアウト、UDフォントを使用しています。一つの題材を歌詞と楽譜とで紙面を分けて表示し、楽譜は大きく見やすく、写真やイラスト等も折り込みを使って配置しています。説明については以上です。

議長

ただ今、調査員から説明がありましたが、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

委員

音楽は2社しかありませんが、楽典の編集が多いように感じました。調査員で何か意見はありましたか。もう一つの質問は、副教材として日本の唱歌や童謡が多く取り入れられていますが、実際に少ない授業時間の中でできるだけ取り入れて授業を行うことができるのかを参考までに教えてください。

音楽調査員

楽典については、どちらの教科書も单元の中で学ぶべきものとして細かく設定されています。巻末にその学年で学んだ箇所と前の学年で学んだ部分とでまとめて表示されています。学習の中で振り返り学習がしやすい構成となっています。そのページで何を学ばなくてはならないのかを明確にした構成となっています。よって、楽典はそれぞれの良さがあると思います。

二点目ですが、音楽の授業時間が確かに減少しています。教科書に載っている楽曲全てを扱うのは、高学年になるにつれて難しいです。日本の唱歌などについては、扱う時間が非常に少ないのが現状です。

委員

各教科書会社の印象に残ったところを教えてください。

音楽調査員

先ほどの2つの違いが大きな違いであると思いました。単元の中で行き来できるということは、各単元で理解できるということであり、深い学びにもつながっていると思います。もう一社は、一つ一つの楽曲の中でゴールが示されていて、児童がその目標に向けてゴールするために教師が指導できるという利点があると思いました。

委員

音楽の譜面に必ず作詞・作曲者が載っていますが、ふりがなのある教科書とない教科書がありました。調査員で話題となりましたか。

音楽調査員

作詞・作曲者のふりがなについては、特に話題になりませんでした。

議長

他に質問がなければ、よろしいでしょうか。

ないようなので報告ありがとうございました。

次は、図画工作の調査結果について説明をお願いいたします。

図画工作調査員

開隆堂出版について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、新学習指導要領における児童に育成したい資質や能力を、授業の中心的な三つの目標（めあて）として、キャラクターを用いて整理しています。各題材では、題材の三つの目標を掲げ、その中の一つを中心的な目標として示しています。「知識・技能」の習得に関して、「くふうさん」というキャラクターの言葉で、形や色、方法や材料を知って工夫することができるように示しています。「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「ひらめきさん」というキャラクターの言葉で、試したり見つけたりしながら考えることができるようにしています。「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、「こころさん」というキャラクターによる言葉で示しています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関して、第1・2学年の上巻「こころのはなをさかせよう」では、6年生への感謝の思いや、入学してくる新1年生への歓迎の思いを表す題材が設定されています。「社会とかかわる力」に関して、第5・6学年上下巻「つながる造形」では、技術の発達と表現の広がりや、将来の自分を想像する活動が示されています。「社会とかかわる力」に関して、第5・6

学年下巻「学校へようこそ」では、学校へ来る人を楽しませるような造形遊びが設定されています。

互いの作品を見合うなど、自他の違いを認めたり、その違いを共感的に受け止めたりできる相互理解の場が取り入れられています。「たくましく生きる力」に関連して、児童作品の飾り方や展示の工夫が紹介され、話し合いによって作品を飾ったり、相談しながら制作したりする活動が取り入れられています。

内容については、言語活動の充実に関して、第1・2学年上の「まなびのしりょう『じぶんのさくひんにだいいいをつけよう』」では、作品に込めた思いを友達に伝える活動を設定しています。第3・4学年上「へん身ダンボール」では、作ったものを身に付けて全身を動かす題材が設定され、作り出した作品で楽しむ活動につなげています。

情報活用能力の育成に関して、第5・6学年上巻「My キャラが動き出す」では、オリジナルキャラクターを作り、情報機器を扱って動画を作る題材が掲載されています。

各学年とも「みんなのギャラリー」のコーナーを設定しており、我が国の伝統的な文化や伝統行事などでみられる作品、工芸作品が掲載されています。「合わせて学ぼう」として、他教科と関連して学習できることを示しています。3～6年生には、英単語を掲載し、QRコードで発音を聞くことができます。各学年に「ひらめきコーナー」を設け、気軽に表現することの楽しさに気付かせ、総合的な学習の時間や特別活動などの他教科での場面でも自由に活用できる内容にしています。

構成・分量・装丁については、A4判で、作品や活動の情景などを大きく掲載し、良さや美しさ、楽しさが十分に伝わるようになっています。各学年の内容（造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞）の配置がバランスよく、児童が様々な造形体験、材料体験を深めることができるように設定されています。全学年巻頭に折り込みページがあり、どのような活動をするのか見通しが持てるように掲載されています。さらに、各題材の分野・領域、中心的な学習の目標など、学習内容のすべての概要を分かりやすく示しています。

表記・表現については、児童がどのような造形活動をするのか理解しやすいように、目次と題材の主なめあてをキャラクターで、内容（造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞）を色と形で示しています。全学年、題材名の上に「ここでつかう主な材料や用具」がイラストと文字で示され、それらを使った多様な表現方法や作品が例示されています。工作など、基本的な作り方や安全面での気を付けることをイラストでわかりやすく示しています。「学習のめあて」で特に大切なものに下線を引いて示しています。配色やフォントでユニバーサルデザインが採用されています。

日本文教出版について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「知識・技能」の習得に関して、各題材に児童の感覚や行為を大切にした目標設定を「手のひらマーク」を用いて示しています。「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、児童が思いや考

えをもとに構想し、創造していくことを大切にした目標設定を「ハートマーク」を用いて示しています。「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、児童が主体的に取り組む態度についての目標設定を「ふたばマーク」を用いて示しています。児童がコミュニケーションをとりながら造形活動を行う様子を紹介しています。作品コメントやワークシートを紹介し、形や色・言葉で思いを伝え合う活動を促しています。美しいものや崇高なものを尊重する心を育むことや友だちと理解し合うことなどの関連を図りながら、道徳との関連があるページについては道徳マークを用いています。「あわせて学ぼう」マークがあり、他教科や他題材と関連付け、横断的な学習の手立てとなるように配慮されています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、第5・6学年下「水の流れのように」では、盲学校の児童生徒との作品を通じた交流を掲載しています。「たくましく生きる力」に関連して、第5・6学年下「平和をつなげるかたち」では、表現には見る人に平和や人権を考えるメッセージを伝える力があることを示しています。「社会とかかわる力」に関連して、第3・4学年上「みんなとつながる」では、図画工作で学んだことを生活や社会で活かしたり、つないだりする事例（高齢者のための施設の訪問・身近な人に贈る様子）などを掲載しています。多様な感じ方を尊重する態度を育むために、友だちとの対話的な学びの場面を豊富に掲載したり、外国の子どもの作品や、海外からの訪問学生との活動事例を取り上げています。

内容については、第1・2学年上では、幼児期の学びと図画工作での学びを関連づけ、円滑に接続できるように、言葉とともに幼児の造形活動の写真を掲載しています。言語活動の充実に向けて、第3・4学年下「ポーズのひみつ」では、作品を鑑賞しながらメモを書き込んだり討論したりする活動が紹介されています。第5・6学年下「墨と自ら広がる世界」では、国語科（書写）と関連させ、墨を使って絵に表す題材が設定されています。情報活用能力の育成に関し、第5・6学年上「形が動く絵が動く」では、ものを少しずつ動かしたり、形を変えたりして撮影し、動画をつくる題材が掲載されています。3～6年生には、英単語を示したページがあり、QRコードを読み取ることで、ウェブページの発音データを聴くことができます。「形と色でショートチャレンジ」として、気軽に楽しく活動でき、造形的な見方や考え方、発想力を身に付けられる短時間扱の絵画題材を各学年に設けています。各学年「教科書美術館」のコーナーが設けられ、我が国の伝統的な文化や伝統行事などで見られる作品、工芸作品が掲載されています。

構成・分量・装丁については、A4判で主に一題材を見開き2ページで構成されています。各学年の各内容の題材が同じような割合で設定されています。作品や写真をより大きく見やすく、インパクトをもたらす掲載をしています。情景写真と作品例は、子どもの姿を示しています。すべての題材において、造形的な見方・考え方を一人ひとりが発揮している姿を、活動の姿の随所に吹き出しの言葉を使って示しています。活動の終わりに、題材での学びを振り返り、次の学びへ活かそうとするように、振り返られる言

葉がけが示されています。ICTを活用して、学習を効果的に進められるように、デジタルマークを付けた題材では、ウェブサイトにコンテンツがあります。

表記・表現については、題材の内容（領域）を形と色で示し、各題材の冒頭に、学習のめあてが示され、具体的な児童の姿を掲載しています。子どもの活動と共通事項を結び付け、学びを促すキャラクターが設定され、吹き出しが多く使われています。児童がどのような造形活動をするのか理解しやすいように、目次と各題材の左上に、色とマークで示しています。特別支援教育・ユニバーサルデザインに対応しており、学年に合わせて文字の大きさが調整されています。誰もが見やすい見分けやすい配色によるデザインになっています。説明については以上です。

議長

ただ今、調査員から説明がありましたが、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

委員

図画工作の表現と鑑賞の活動が重要になると思いますが、表現と鑑賞の活動のバランスについて、調査員で話題になったことがあれば教えてください。

図画工作調査員

どちらも表現をしている様子であるとか、友だちの作品を見合う写真が掲載され、表現と鑑賞の活動について非常に意識された作りとなっていると感じました。あと、友達の作品を見合って感想を述べる場面もありました。よって、表現と鑑賞のバランスはとれていると思いました。

議長

他に質問がなければ、よろしいでしょうか。

無いようなので報告ありがとうございました

次は、家庭の調査結果について説明をお願いいたします。

家庭調査員

東京書籍について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「知識・技能」の習得に関して、意欲が高まる取り組みやすい実習題材を取り入れ、必要な時にいつでも基礎・基本の確認ができる「いつも確かめよう」が掲載されています。また、全ての小題材に「学習のめあて」「ふり返ろう」が設けられています。「思考力・判断力・表現力等」

の育成に関して、すべての大題材が問題解決の流れ（ステップ1～3）で展開されています。「学びに向かう力・人間性等」に関して、自ら課題を設定し、計画を検討し、実践、まとめ・発表、評価・改善をする形式が、複数個所で設定されています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関して、他者を尊重し思いやる力を育めるよう、家族や地域の人と関わる体験などの題材が、複数個所設定されています。「たくましく生きる力」に関連して、食事の必要性や栄養に関連する内容が系統的に繰り返し設定されています。「社会とかかわる力」に関連して、家庭や地域で自分ができることを考え、工夫するような題材が設定されています。

内容については、家庭科の見方・考え方を「家庭科の窓」として設定し、生活をより良く変えていく力の育成を目指しています。主体的・対話的で深い学びとなるように、学習の流れが示され、「やってみよう」「話し合おう」「調べよう」などの活動が取り入れられています。新設された「家族・家庭生活についての課題と実践」では、長期休業中に実践できるように、取組例とまとめ方の例が複数掲載されています。衣食住に関連する日本の伝統と文化が取り上げられています。持続可能な社会の構築が、消費者教育と合わせて一つの大題材として取り上げられています。「道徳教育」「防災教育」「安全教育」「食育」「環境教育」「キャリア教育」「情報教育」など、今日的な課題についても取り上げられています。

構成・分量・装丁については、全学習項目で、問題解決的な学習が行える構成（1 見つけよう→2 計画しよう・実践しよう→3 生活に生かそう・新しい課題を見つけよう）になっています。第5学年で基礎的な知識・技能を学び、第6学年でさらに難度の高い知識・技能の習得につながるような実習題材が配列されています。実習や学習環境等の準備がしやすいよう、第5・6学年で指導内容を同時期に行える配列であります。学校や地域に応じたカリキュラムに対応できるよう、15 の大題材をユニット型で示しています。A4判で表紙は防水加工です。開いた状態を保つことができ、ユニバーサルデザイン教科書体を使用しています。

表記・表現については、学習の流れや調理の流れがわかるようにイラストや写真、レイアウトを工夫しています。第5学年以降に学習する漢字には、ふりがながふられています。調理や製作に関する無料のデジタルコンテンツ（動画）が随所に用意されています。中学校家庭分野、他教科と関連する内容には、関連マークが示されています。小学校英語と関連して、家庭科に係る英単語とその日本語訳が脚注に掲載されています。

巻末の「いつも確かめよう」では、実物大の写真が掲載され、児童が実際に手を置いて練習できるようになっています。

開隆堂出版について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された目標を踏まえた工夫や配慮がされて

います。「知識・技能」の習得に関して、生活を見つめ、身に付けた知識や技能を生活に活かせるよう、児童が想起しやすい場面が設定されています。また、基礎・基本が身に付けられるよう、系統的な配列になっています。「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「考えよう」「やってみよう」「話し合おう」など、知識・技能を活用し、課題を解決する題材が随所に設定されています。「学びに向かう力・人間性等」に関して、習得した知識・技能を生活につなげる「できたかな」「ふり返ろう」「生活に生かそう」などの欄が各題材に設定されています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関して、多様性を認め合い、思いやる心を育めるよう、地域で暮らす様々な人が紹介された題材が、複数個所設定されています。「たくましく生きる力」に関連して、食事の大切さに関心を持ち、食生活を組み立て、生活に活かす題材が設定されています。「社会とかかわる力」に関連して、家庭や地域で自分ができることを考え、工夫するような題材が設定されています。

内容については、教科書全体を通して、2人の小学生が主人公として学習のガイド役を務め、ストーリー性を持たせています。生活から課題を発見し、解決するための「生活の見方・考え方」が4つの視点として示され、各題材でそれぞれの重視する視点が示されています。主体的に問題解決に取り組めるよう、対話と学び合いのある体験的な活動が随所に掲載されています。各題材のとびらにイラストや写真で始まるフォトランゲージを取り入れています。新設された「生活の課題と実践」の事例が複数示され、課題解決に向かうスモールステップも示されています。安全・衛生・防災・プログラミング教育への配慮、伝統文化の充実、キャリア教育との関連、食育への対応、中学校・道徳・他教科との連携が図られています。

構成・分量・装丁については、各題材は、問題解決のプロセス（1 見つける・気づく→2 わかる・できる→3 生かす・深める）に沿った3つの小題材で構成されています。

第5学年で基礎的な知識・技能を学び、第6学年でさらに難度の高い知識・技能の習得につながる実習題材が配列されています。実習や学習環境等の準備がしやすいよう、第5・6年生で指導内容を同時期に行える配列がされています。学校によって題材の組み換えができるように細かく設定されています。A B判で表紙は防水加工です。開いた状態を保つことができ、ユニバーサルデザイン教科書体を使用しています。

表記・表現については、学習の流れや調理の流れが分かるようにイラストや写真、レイアウトが工夫されています。第5・6年生配当漢字には、見開きのページごとの初出した個所にふりがながふられています。各題材にQRコードを記載され、関連する動画を見ることができます。各ページの下部に家庭科の内容に関する用語の英単語が記載されています。

コンピューターや情報通信ネットワークを使用して、学んだり発表したりする場面が随所に掲載されています。「いろいろなおかずの例」として写真が随所に掲載されてい

ます。調理をする際の難易度が示されています。説明については以上です。

議長

ただ今、調査員から説明がありましたが、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

委員

内容にも記載されていますが、生活をよりよく変えていく育成の力をめざすということは、他教科にも掲載されていますが、一つの題材として「SDGs (持続可能な社会)」をめざすなかで、家庭科でも取り上げられているのかと感じています。教科書によってはSDGsの扱いが異なりますが、この違いについて調査員で話題になりましたか。

家庭調査員

5年生の夏頃に1単元として扱っており、もう一方は6年生の最後の段階で扱っているという違いがあったと感じています。

委員

構成の部分で教科書会社によっては、「～になっている」「～見通しやめあてをもって学習できる」と異なっているが、調査員で話題となりましたか。

家庭調査員

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連に「学習のめあて」が記載されていない教科書会社については、構成の部分で記載しました。

議長

他に質問がなければ、よろしいでしょうか。

ないようなので報告ありがとうございました

次は、保健の調査結果について説明をお願いいたします。

保健調査員

東京書籍について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「ステップ1～4」という流れで作られており、見通しを持って思考することができます。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」という面で、命の大切さや自己の成長について学習できるようにするため、赤ちゃんの写真や1歳の頃の手形・

靴の写真が掲載されています。「たくましく生きる力」に関連させて、感染症の予防方法や歯周病の歯茎と健康な歯茎との比較を写真や絵で表現しています。「社会とかかわる力」という視点から、地域の保健活動の職種やどのような活動をしているかなど写真で表現しています。また、「ユニバーサルデザイン」の説明や様子なども写真で掲載しています。

内容については、インクルーシブ教育への配慮という視点から共生への配慮として、様々な場面で多様な人との関わりの例を示しています。また、挿絵が多く配置されており、その中に子どもたちの絵が描かれているので、インクルーシブ教育へつながっています。

構成・分量・装丁については、記入スペースを多くし、教科書をワークシートのように活用することができ、あとで振り返ることができるように構成されています。

大日本図書について説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「学びに向かう力・人間性等」に関しても、「もっと知りたい・調べたい」コーナーを設けられており、様々な資料が掲載されています。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、エイズに関する正しい理解と、共に生きていく大切さなどの共生の観点から掲載されています。

「たくましく生きる力」に関連して、自分の生活をチェックする項目が設けられており、健康教育の観点から学習することができるようになっています。

内容については、学校段階間の円滑な接続に関して、中学校2学年で学習する自然災害から身を守ることにについて考えられるように、様々な被害の写真が掲載されています。

構成・分量・装丁については、系統的に学習できるよう、導入の「学習ゲーム」の中にいる人物が、単元の途中にも繰り返しています。

文教社について説明します。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、命の大切さについてより身近に感じることができるよう、母親と赤ちゃんの関係について、第4学年の児童の文章が掲載されています。

内容については、主体的・対話的で深い学びとなるように、各単元のまとめに「〇〇宣言」が設定されています。児童の学習上の困難さに応じた工夫に関して、単元のまとめとして、「〇〇宣言」で自分の考えをまとめるために、具体的な例示が複数表示されています。また、困難を感じる児童についてもフォローできる形で書かれています。

構成・分量・装丁については、課題解決の支援として、子どもキャラクターが対話形式をとることで、身近な雰囲気でも学習でき、自分の事として捉えることができます。単元の終わりには、新しい自分へレベルアップとして、記述欄を設け、思考力、判断力、

表現力を自然と身に付けていけるようになっています。

光文書院について説明します。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「たくましく生きる力」に関連して、食育の観点からの学習として、スポーツ選手の例や、国立スポーツ科学センターの方の話が取り上げられています。

内容については、言語能力の育成に関して、児童が自分の考えを伝えられるように、学習活動の中に積極的に「話し合おう」という場面が設けられています。情報の活用力の育成に関して、動画などの資料を活用して、学習を進める手立てが記載されています。

現代的な課題への対応を重視し、運動と健康の関連や、食に関する内容、情報化社会への対応、共生社会の実現のためになど様々な課題への対応を取り上げています。

構成・分量・装丁については、身近な生活課題を見つける工夫に関して、単元のはじめに、学習内容を把握するため、児童の生活に寄り添った4コマ漫画が掲載されています。児童にとって理解が深まるように、単元の途中やまとめの前に、「さらに広げよう・深めよう」のコーナーが複数に設けられています。また、中学校や他教科へのつながりや関連性についても重視しています。

学研教育みらいについて説明します。

教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連については、「知識・技能」の習得に関して、「かがくの目」コーナーと「ことば」コーナーが設定されています。

内容については、学校段階間の円滑な接続に関して、中学校第2学年で「がん」について考える「がんの予防」の学習が、発展として1ページを使って掲載されています。

児童の学習上の困難さに応じた工夫に関して、各単元の最後に学習の振り返りができるように、3段階の表情によるチェック欄が設定されています。

構成・分量・装丁については、積極的な健康観、共生の視点を基本においた内容構成がされています。説明については以上です。

議長

ただ今、調査員責任者から説明がありましたが、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

委員

各教科書会社とも中学校への円滑な接続について重要視していることが伺えますが、調査員で話題となったことがあれば教えてください。

保健調査員

やはり、中学校とのつながりは大事だと思います。また、他教科とのつながりも大事だと思います。どの教科書会社も安全面（災害）についても考えなくてはならない記載もありましたし、中学校だけ、小学校だけというまとまりではなく、小学校から教えていくべきであるという話がありました。

委員

保健の特徴だと思いますが、教科書がワークシート型式になっており、記入欄が多くなっていると感じます。まとめの欄に記入できるとか、あるいはチェック欄があるとか、今後、授業の中でどのように取り扱っていくのか、調査員で意見が出たなら教えてください。

保健調査員

今回意見をまとめるにあたり、先ずはお互いに自分の意見を持ちましょうという思いがありました。話し合おうと言っても、なかなか意見は出にくいものです。事前にお互い思ったあるいは感じたことを紙に書いて発表するというスタイルにしたらという意見が出たので有意義に感じました。また、友だちの意見を聞いてどう変わったか、自分の変容（変わったこと）を書けることが大切であると思いました。初め、中間、終わりの各段階で記録として記入し、活用できることも大切だと思いました。

あと、自分で自分を評価するという意味でも大切であるといった意見も出ました。

委員

構成・分量・装丁の欄で、「科学的な理解」という記述があり、個人的には心情面と科学的な見方は非常に大事だと思います。他の教科書会社には、「科学的な理解」という記述や説明がありましたら教えてください。

保健調査員

「科学的な理解」というのは、胎児の様子という意味では他社でも載っていました。パッと見て子どもや大人でもわからないこと、例えば手に付着している細菌の量についてこんなに繁殖するとか、汗をかいた時の衣類等の写真は掲載されていました。

委員

中学校での滑らかな接続であるとか、教科との接続が大事であると言っていました。命の大切さだとか、地域貢献について各社取り上げられていますが、各社の特徴的な部分がありましたら教えてください。

保健調査員

災害に関する掲載記事について、どの会社も非常に多く掲載されていました。当然、命についても4年生で学習しますが、よりわかりやすく、写真等でリアルに説明されています。特徴としては、なかなか読み取りにくかったのが正直な感想です。

議長

他に質問がなければ、よろしいでしょうか。

ないようなので報告ありがとうございました。

次は、外国語の調査結果について説明をお願いいたします。

外国語調査員

東京書籍について説明します。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「たくましく生きる力」に関連して、国境を越えて働く人々の様子が取り上げられ、外国で活躍する日本人や日本で活躍する外国人について書かれています。

内容については、単元を通して、目標となる表現についてペアで尋ね合うことを繰り返し行い、主体的かつ協働的に学ぶことで気付きが生まれるような活動が設定されています。児童が段階的に学べるよう、第5学年では地域から日本のことを、第6学年では日本から世界のことを学ぶ流れで単元が設定されています。

構成・分量・装丁については、文字の習得のため、文字を書く部分には、4本線が引かれています。児童が書き込んだり切り貼りしたりする本体は大判（A4判）、別冊の語彙・表現集は携帯に便利なA5判サイズになっています。

表記・表現については、学習する際に、何の技能を習得するのかがわかるように、5領域の技能がアイコンで示されています。

開隆堂について説明します。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、共生の観点から、パラアスリートや様々な国のアスリート等、様々なスポーツの写真が取り上げられています。

内容については、世界と自分の住む地域とを比べながら理解を深められるよう、世界の様々な挨拶の言い方や正月の様子、十二支や年賀状なども扱われています。

構成・分量・装丁については、単元の最初に見開きで構成されたページがあり、学習する内容や活動が児童にわかるような構成になっています。1時間の活動が過重にならないように、基本的に1ページ1時間という配当になっています。

表記・表現については、児童の発達段階に応じて、分かりやすく読みやすい文章表現や、語彙や活動のイメージが湧くような写真やイラストが用いられています。各単元末

に、各学習状況を振り返ることができるマークが配置されています。

学校図書について説明します。

内容については、言語活動の育成に関して、英語の表現に慣れ親しめるよう、リスニングからスピーキングという流れになっています。また、まとめでは発表が多く設定されています。日本や外国との違いを理解し、異文化についての関心が高まるように、多様な国や地域が題材として取り上げられています。パラアスリートや様々な国のアスリート等、様々なスポーツの写真が取り上げられています。

三省堂について説明します。

内容については、児童が興味をもって取り組めるよう、身近な場面を設定し、児童同士が関わり合いながらコミュニケーション活動ができるようになっています。主体的・協働的に学び合いができるよう、単元のまとめとしてグループ活動を取り入れています。

目的や場面を意識し、話す内容や構成を児童同士で話し合い、発表内容を作り上げるなど、対話的な活動となるように設定されています。

構成・分量・装丁については、第5・6学年において、それぞれ6つの言語活動の目標が設定され、学びを深めるために大単元と小単元の段階を追って学習する配置となっています。4年生については「自己紹介」「他者紹介」「日本の紹介」が、6年生については「学校紹介」「思い出紹介」「未来の夢紹介」が大単元で構成されており、これら大単元を作るために小単元があり、最終的には自己紹介を完成させるプログラムとなっています。イラストや写真が見やすいように、大判のA B判が採用されています。

教育出版について説明します。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「社会と関わる力」に関連して、地域の良さに目を向けながら、自分たちの将来のことや生き方について具体的に考える場面が設定されています。

内容については、言語能力の育成に関して、相手に応じて適切な言葉を選び、話すことができるようにペアやグループ活動が取り入れられています。児童の身近な暮らしにかかわる場面でのコミュニケーションが設定されています。様々な場面で自国や海外の文化等に触れ合えるよう、日本と世界の国々をテーマの中心として学習を展開しています。

構成・分量・装丁については、児童がゲーム形式で英語に慣れ親しむことができるような構成になっています。

光村図書について説明します。

かながわ教育ビジョンとの関連については、「思いやる力」に関連して、他者に配慮

する態度が養えるように、英語によるやりとりの場面で反応が大切であることが示唆されています。「たくましく生きる力」に関連して、コミュニケーション能力を育むために、自分の意図を伝える言い方など具体的な方法が多く紹介されています。

内容については、言語活動の育成に関して、コミュニケーションを行う際に段階的に難易度が上がるようにしています。各単元の初めに、学習内容についてイメージを膨らませ、理解を促すよう、映像を用いた活動が取り入れられています。

構成・分量・装丁については、第5・6学年を通して、一貫したストーリーになっており、各単元では、見開きの2ページずつで共通した構成になっています。

表記・表現については、各単元の初めに、児童が見通しを持って学習に臨むための学習目標や流れが掲載されています。

啓林館について説明します。

内容については、単元ごとに目標とする表現を繰り返して練習できるように4技能の言語活動を展開するようになっていきます。5年生では、自分の身の回りのこと、知っていることを扱い、6年生では、身の回りのことをもう少し詳しく調べたり、身の回りから少し離れたことについて扱っています。児童の言語理解が深まるよう、社会の日本地図や国語の物語教材、グラフの統計の読み取りなど、他教科で既習した内容が取り上げられています。単元ごとに振り返りが充実しています。

構成・分量・装丁については、児童の実態によって扱うことのできる活動やストーリータイムという読み物教材があります。説明については以上です。

議長

ただ今、調査員から説明がありましたが、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

委員

小学校英語から中学校英語への段階的な連携について、調査員で話題になったことがあれば教えてください。

外国語調査員

調査員で大きく話題になったことはありませんでしたが、各会社ともゲーム的要素からコミュニケーションを中心としたものに変わり、多く取り入れていると思いました。

また、児童たちがコミュニケーションを取り入れている教科書が多かったという意見が調査員でありました。

委員

3・4年生の外国語活動と、5・6年生の外国語活動の接続について、調査員で話題になったことがあれば教えてください。

外国語調査員

3・4年生で習う単元が、5・6年生の外国語教科書の最初に復習という形で掲載されていました。3・4年生で培っていたであろうという表現が5・6年生の最初に用いられていたのも、関連して作られたものになっていました。

委員

各社ともコミュニケーションを重視しているということはわかりますが、外国語を主体的に学ぼうとする動機づけがいくらか違うように感じました。例えば、身近なものを英単語で見せて導入するケースと、日本に住む私たちという観点から始まって、英語を学べば世界が広がるという教科書もありました。小学校で英語を指導するにあたり、指導を意識するという意味において調査員で話題になったことがあれば教えてください。

もう一つは、音声教材に各社の違いというか、特徴があれば教えてください。

外国語調査員

まず、一つ目の動機付けについては、どの教科書も身近なところでは「自分」からスタートします。例えば、自己紹介とかです。「自分のこと」「住んでいる地域のこと」「日本の紹介をしましょう」「外国でこういうものがありますよ」と段階的に考え、普段意識しない日本のことを、世界を見つめることで本来の日本というものを感じ取れるのではないかと思いました。動機付けの違いについては、調査員で話題になりませんでした。

二つ目の音声教材についても、調査員で話題になりませんでした。

委員

教科書が「Hi! friends」から「We can」に変わりましたが、変わったポイントがあれば教えてください。

外国語調査員

調査員でも「We can」の変更ポイントについては話題になりました。「Hi! Friends」の方がベーシックな英語を伝えていたようでした。どちらかというところ、「Hi! Friends」でやっていたことを、3・4年生の「Let's try」に移行された印象を個人的には持っています。自己紹介から始まって、5～6年生の「We can」では3人称で紹介します。

今までは自分がどう思うかが主体として書かれていましたが、5・6年生では自分に加えてインタビューした相手がどう思うか、あるいは自分の夢を相手に伝えるという表現が「We can」では多く用いられているようでした。

議長

他に質問がなければ、よろしいでしょうか。
ないようなので報告ありがとうございました。

最後は、道徳の調査結果について説明をお願いいたします。

道徳調査員

各社の説明として、内容及び構成・分量・装丁を中心に説明させていただきます。

東京書籍について説明します。

内容については、コミュニケーション活動として、読み物教材で道徳的価値を学習したあと、「であう・ふれあう」の中で活動を行うことで、友達との心の交流を図り、人間関係の構築をねらっています。道徳の学習を進めるために、言葉だけではなく授業のイメージがしやすいように、イラストを使って視覚的に表現しています。また、ショートストーリーを読んで話し合うことで、話し合うことの良さに気付く工夫もされています。

学校図書について説明します。

内容については、道徳的な価値や課題に気付かせる教科書の「きづき」と気付いたことを議論し、深める「まなび」の2冊で一つの教科書として構成されています。

「きづき」については、あえて文書のみ記載となっており、子どもたちが自分たちの気付きを促すことができます。内容が項目ごとにまとまっているので、学習をする際に子どもたちが価値の違いを理解できるのではないかと思います。

教育出版について説明します。

内容については、多彩な人物教材を掲載していて、神奈川県に関わっている5人の先人についても掲載されていて、地域教材が充実しています。指導にとっても興味を持って学べるのではないかと思います。また、内容自体が、一話が無理なく学習できる教材が精選されていること、教材自体が短くなっていること、見てわかる教材を積極的に掲載してあります。子どもたちにとって内容がわかりやすく、話し合う時間が十分にとれるよう配慮されていると思います。

光村図書について説明します。

内容については、低学年は読み物の教材だけでなく、比較的授業の興味や関心を感じることができる漫画形式の教材や、見開きで1枚の絵や写真があり、多様な教材が入っています。

す。

日本文教出版について説明します。

内容については、1年生は保育園・幼稚園と小学校との連携、6年生は中学校との連携が重視されており、その点で配慮されていると思います。構成については、各学年とも35時間（1年は34時間）で主教材ありますが、付録として3教材あり、各学校で年間指導計画を検討する際に選択の幅を広げることができるとともに、多様な教材を参考に自主教材の開発に役立てることができるように工夫されています。

光文書院について説明します。

内容については、地域の実態に応じた多様な地域教材が設けられています。また、児童の心を揺さぶり、共感を呼ぶ教材で深い学びを促すような工夫がされています。教師用指導書にはデジタル教材がセットになっており、教材の内容を深める動画や教科書紙面を大きく投影できる電子ブック、教材内のイラストデータなどが収録されています。

構成・分量・装丁については、写真やイラストが大きく引き立ち、児童の興味・関心や思考が深まるように工夫されています。

学研教育みらいについて説明します。

考え、議論する道徳の実現に向けて工夫がされており、児童を大切にしている内容となっています。内容も多面的・多角的に捉えられる4つの分類となっています。また、大きなA4判で、挿絵や写真の大きさが大きく、特に1年生の教科書だと等身大の赤ちゃんの写真になっているなどの工夫がされています。また、地域に関連した教材や人材の内容も扱っています。

廣済堂あかつきについて説明します。

こちらは、本冊と別冊で2冊構成となっていて、裏表紙には「保護者の皆様へ」や、別冊「心のノート」の巻末折り込みには、教師や保護者が児童の記述を確認できる欄があり、家庭との連携を図ることができるようにしています。これからの情報社会で必要となる情報モラルの問題を扱っています。中・高学年においては、本冊に特集ページを組み、折に触れて活動できるよう工夫されています。また、1年生と高学年において、幼稚園や中学校との連携を踏まえた内容が構成されています。説明については以上です。

議長

ただ今、調査員から説明がありましたが、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

委員

道徳の教科は2年目になりますが、確か、分冊がない教科書となっています。今回は分冊があつたりなかったり、また分冊の内容が各教科書会社によって異なるので、調査員で話題になったことがあれば教えてください。もう一つは、現在使用している教科書において、道徳のノートについて工夫して取り組んでいることがあれば教えてください。

道徳調査員

分冊があるかないかということについては、実際に分冊がある方で授業したことはありません。教科担当として、2冊扱うことができるのかどうか話題になりました。また、内容と活動がしっかり分かれているので、取り組み方の工夫について考えたり悩んだりすることでヒントになるのかなといったことも話題となりました。

道徳のノートについては、実際研修に参加すると低学年はワークシートで記述をして、クリアファイルで綴じている学校が多くて、高学年になると、ノートのマス目に自分の考えを書くことを取り組んでいる学校が多いと聞いています。実際に自分の学校でも同様に取り組んでいます。

議長

他に質問がなければ、よろしいでしょうか。

ないようなので報告ありがとうございました。

議題(2) 令和2年度中学校使用教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）について

次に、議題(2)「令和2年度中学校使用教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）について」です。

議長

こちらにつきましては、中学校教員代表の南足柄中学校の校長先生と文命中学校の校長先生から4年間の使用実績等を報告していただきます。まずは、南足柄中学校の校長先生をお願いします。

委員

現在中学校では、新しい学習指導要領全面実施に向けた移行措置期間に入っております。先生方は、主体的・対話的で深い学び等の新しい学習指導要領の主旨を踏まえ、授業を行っております。これらの中で、現在使用している教科用図書において、特に大きな支障もなく、使用していると考えております。

議長

報告ありがとうございました。続きまして、文命中学校の校長先生よろしくお願ひします。

委員

4年間ということですが、私も日々各授業を拝見しています。また、校内での授業研究、研究協議を通しましても、上郡には足柄上郡中学校教育研究会があります。その中でも授業研究とか研究協議を行っています。このような取組を経ましても、現在使用している教科書につきましても、特に支障がなく、良好に使用していると考えております。

議長

報告ありがとうございました。

ただ今、両校長先生から説明がありました件についてご質問等がありましたら、お願いいたします。

委員

質問なし。

議長

よろしいでしょうか。

両校長先生、報告ありがとうございました。

以上で本日の議題全てが終了となりました。スムーズな議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。進行を事務局へお返しします。

事務局

会長、ありがとうございました。

事務局から3点、連絡がございます。

- 1 各教育委員会においては、7月30日(火)17時までに、希望する教科書を第3希望まで決定していただき、事務局へご連絡くださいますようお願いいたします。
様式につきましては、後日メールでお送りいたします。
- 2 8月1日(木)午前9時から松田町役場4階AB会議室にて、足柄上採択地区協議会(第2回)を開催いたします。
1市5町の協議会委員となっております教育長及び教育委員1名のほか、1市5町の担当課長の出席をお願いいたします。
- 3 本日の会議資料は教育長及び教育委員の方は、今後の各市町の教育委員会での採択で必要となりますので、本日の資料をお持ち帰りください。

本日の資料の中の、調査票は回収させていただきます。

事務局

最後に、副会長から閉会のご挨拶をお願いします。

副会長

本日は、皆様長時間にわたり検討会お疲れさまでした。調査員の皆様には、心から感謝申し上げます。本日の検討会を基に、各市町教育委員会におかれましても、よく検討していただきまして、子どもたちのためにより良いものとなりますようお願い申し上げます。それでは、これをもちまして「令和元年度神奈川県教科用図書足柄上採択地区採択検討会」を終了いたします。ありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。